



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2019 October to December, vol. 204



特別展

流転一〇〇年

佐竹本三十六歌仙絵と

王朝の美

〈予告〉

新春特集展示

子づくし

—千支を愛でる—

特集展示

京都御所障壁画

紫宸殿

京都国立博物館

だより

二〇一九年

一〇・一一・一二月号



国宝 三十六人家集 重之集 京都・本願寺 (通期展示、ただし帖替・頁替あり)

料紙装飾の傑作

三十六歌仙の人物ごとに和歌を記した冊子で、贅を尽くした料紙装飾がページごとにきらびやかな世界を展開します。平安貴族の三十六歌仙への憧れが伝わる名品中の名品。

特別展 流転一〇〇年 佐竹本三十六歌仙絵と 王朝の美

10月12日(土)～11月24日(日) 【平成知新館】

※会期中、一部の作品は展示替を行います。
 『主な展示替』 前期：10月12日(土)～11月4日(月・休)
 後期：11月6日(水)～11月24日(日)

ちょうど一〇〇年前に起こった「絵巻切断」事件をご存知でしょうか。一九八三年に放映されたNHKの特集番組「絵巻切断と秘宝三十六歌仙の流転」も話題になりましたので、それを覚えていらっしゃる方も多いでしょう。

「切断」された絵巻とは、「佐竹本三十六歌仙絵」。二巻の絵巻物と



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 源信明 京都・泉屋博古館 (通期展示)

100年愛され続けた家宝

流転を繰り返した「佐竹本」の各断簡ですが、最初の所有者の家を離れないまま一〇〇年の時を過ごしたものもあります。本図は十五代住友吉左衛門友純が入手したのち、流出することなく今日に伝えられました。



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 小大君 奈良・大和文華館 (11/6～11/24 展示)

別格の「歌聖」

柿本人麻呂は三十六歌仙に選ばれるより古くから多くの尊敬を集めてきました。「一人麻呂影ひとまろえい供」という歌会も有名です。



重要文化財 柿本人麻呂像 性海雷賢・詫磨松翁筆 東京・常盤山文庫 (通期展示)

誰もが女性の歌仙を求めた

華やかな女房装束(十二単)をまとった女性歌仙には人気も集中し、本図は四万円の「斎宮女御」、三万円の「小野小町」に次ぐ高額な評価二万五千円が与えられました。最初の所有者は製糸商・原富太郎(号・三溪)。※金額は当時の値段



して大正時代に売りに出されましたが、著しく高額な値段がついたために、購入できる人物が見つかりませんでした。文化財保護の法整備も十分でない当時、海外流出も危ぶまれたのです。そこで、当時の経済界の中心人物にして大茶人であった益田孝（号・鈍翁）たちが発起人となり、絵巻を一歌仙ずつ分割し、財界人や茶人によって共同購入する方針を決定しました。歌仙はそれぞれ値段の差がつけられ、女性像はとくに高値となりました。

大正八年（一九一九）十二月二十日、益田の邸宅「応挙館」に集まった人々は、なんと抽選籤をひいて、自身の購入する歌仙を決めました。当代一流の名士が集った現場では、悲喜こももものドラマが繰り広げられたといえます。実際には刃物を使った「切断」ではなく糊をはがした解体・分割であったのですが、この事件は衝撃をもって受け止められ、当時から絵巻の「切断事件」として新聞などを賑わせました。

その後、一枚一枚の歌仙絵は各人各家の秘宝として大切に受け継がれます。しかし、それらの多くは戦争、高度経済成長、バブル崩壊など、めくるめく日本近現代史の波に翻弄され、所有者が移り変わりました。残念ながら、その流転の中で、所在がわからなくなってしまったものもあるのです。

「切断」から一〇〇年の節目を迎え開催する本展は、秘宝「佐竹本三十六歌仙絵」が過去最大の数で集結する、たいへん貴重な機会となります。日本の古典文化の根幹たる和歌に関連する平安・鎌倉時代の美術作品とともにご覧いただき、その魅力を改めてご堪能いただきたいと思います。

平成知新館の三階（第一・二章）では、和歌を記した平安の古筆や、万葉歌人・柿本人麻呂の肖像画、そしてその中に描かれた、文人の象徴である硯箱などをご覧いただけます。とくに、三十六歌仙の和歌を記した冊子である国宝「三十六人家集」（京都・本願寺蔵）は、平安貴族による三十六歌仙への強い憧れが伝わる、王朝美術の名品です。

二階（第三章）では、本展の主役である佐竹本三十六歌仙絵を展示します。まずは、「応挙館」の障壁画や、実際に使われた籤筒などを通して、一〇〇年前の事件を振り返ります。そして、流転を乗り越えたひとつひとつの歌仙絵が、複数の展示室にまたがって奇跡の再会を果たします。最初の所有者が入手してから一〇〇年間、他所に移ることのなかった野村家の「紀友則」や住友家の「源信明」については、その当主の茶道具と取り合わせて展示し、近代数寄者の趣味にも迫ります。

一階（第四・五章）では、「佐竹本三十六歌仙絵」と同じ鎌倉時代につくられた美術品を展覧します。絵巻や古筆、そしてさまざまな歌仙絵を



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 素性法師（通期展示）

「僧侶」を引き当てたのは誰？

「佐竹本」分割を主導した益田孝は、くじで僧侶を引き当ててしまいます。たちまち不機嫌になった益田に一同恐れをなして、一番人気の「斎宮女御」を引き当てた人物がこれを譲る羽目に。彼は一転機嫌を良くしたと伝えられます。※エピソードには別の説もあります。



籤取花入（通期展示）



紅葉呉器茶碗 京都・野村美術館（通期展示）



住吉蒔絵硯箱 奥村重兵衛氏寄贈・京都国立博物館（通期展示）

通じて、この時代の優れた美意識をお伝えします。最後（第六章）は江戸時代のさまざまな絵師が手掛けた歌仙絵の優品で幕を下ろします。令和に改元され王朝文化を見直す機会が増える本年、「佐竹本三十六歌仙絵」の事件を振り返り、その意義と作品の魅力を改めて確かめることで、日本の古典文化を未来へ繋げていく契機にしたいと思います。

（井並林太郎）

◆《佐竹本三十六歌仙絵》ここに注目！

注目①：和歌

みよしのの 山の白雪 つもるじこ
ふる里さむく なりまどりゆく

（口語訳）吉野の山には雪が積もっている
だろつ。奈良の都も寒さが増していく。

注目②：表情

歌を踏まえて観ると、少し赤く染まった
頬は寒さのためかと想像したくなります。



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 坂上是則
文化庁（通期展示）



注目③：表具

分割された歌仙絵は、それぞれの所有者によって趣向を凝らした表具を施され、掛け軸に仕立てられました。本図の表具は、鹿の住む雪山を描いた



「佐竹本三十六歌仙絵巻」二巻が納められていた箱
（文時絵巻物箱）（通期展示）



重要文化財 伊勢物語絵巻 大阪・和泉市久保徳記念美術館（11/12～11/24 展示）



新時代の王朝絵巻

「昔、男ありけり」でおなじみの、歌物語の古典『伊勢物語』。鎌倉時代につくられた本絵巻は、構図や色調に新鮮な美意識があふれています。

「三十六歌仙」とは？

歌人・藤原公任の『三十六人撰』に選ばれた三十六人の優れた歌詠み人。柿本人麻呂や小野小町、在原業平など、飛鳥時代から平安時代に活躍した歌人が挙げられています。

「佐竹本」とは？

鎌倉時代以降、多く描かれるようになった歌仙の肖像を歌仙絵といいます。「佐竹本三十六歌仙絵」は、旧秋田藩主・佐竹侯爵家に伝わったことから、「佐竹本」と呼ばれます。

「佐竹本」は何がすごい？

歌の意味に寄り添い、歌仙一人ひとりの表情や姿勢に微妙な変化を加え、詠んだ人物の心情をも感じさせる肖像表現が、ほかの歌仙絵や同時代の肖像画にくらべて大きく優れています。その美しさは、一歌仙ごとの断簡になっても損なわれておらず、まさに歌仙絵の最高峰といえます。

◆「絵巻切断」の舞台、「応挙館」と益田孝（鈍翁）

「応挙館」

「佐竹本三十六歌仙絵」分割の舞台となった鈍翁の邸宅。当時は東京・品川区の御殿山に所在しました。「応挙館」という呼称は、円山応挙が描いた障壁画で飾られていることに由来します。昭和八年（一九三三）に東京国立博物館に寄贈され、今に至ります。



中世の絵画を切り取ったものを用いています。表具、歌、肖像が一体となつて季節感を演出した本作は、冬の茶席によく合う一幅といえるでしょう。

◆関連イベント

十二単お服上げの再現ー
現代につながる王朝の美

「流転一〇〇年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」展の開催を記念して、十二単のファッションショーを行います。絵巻に描かれた中務、小大君、小野小町ら女性歌人の姿を、舞台上に再現します。十二単の鮮やかな色の重なり、かすかな衣擦れの音、そしてお服上げ（着付）の巧みな技術にご注目ください。

日時：11月9日（土）
11時～、12時30分～、14時～、15時30分～の4回公演

*各回約30分
会場：平成知新館 講堂
出演：衣紋道 東京道場
参加無料（ただし、本展覧会の当日観覧券が必要）
参加方法：当日10時より、平成知新館1階グラウンドロビーにてお一人様1枚ずつ整理券を配布し、定員（各回200名×4公演）になり次第配布を終了します。
主催：文化庁、独立行政法人 日本芸術文化振興会、京都国立博物館、日本経済新聞社、学校法人 国際文化学園 国際文化理容美容専門学校 衣紋道 東京道場

「ちはやふる」
複製原画展示

競技かるたの魅力を描き、少女漫画の枠を超え人気を博す『ちはやふる』（末次由紀／講談社刊）の主人公・千早が、本展の応援サポーターに就任しました。本展に向けた描き下ろしイラストを含む複製原画を、平成知新館2階レファレンスコーナー付近に展示します。



©末次由紀／講談社

ツイッター企画
「令和36歌仙」発表！

投稿いただいたみなさまの中から選ばれた、優れた詠み人「令和36歌仙」。選定された歌とそのユーザー名を、会期中、平成知新館グラウンドロビーにて掲出します。



公式サイト <https://kasen2019.jp/>
公式ツイッター @36kasen2019

「佐竹月丸扇

【益田孝（鈍翁）】

「佐竹本三十六歌仙絵」分割の主導者である益田孝（号・鈍翁）は、旧三井物産を設立し、日本経済新聞の前身、「中外物価新報（中外商業新報）」を創刊するなど、近代日本経済界の重鎮でした。茶人として、また古美術の蒐集家としても名高く、国宝「源氏物語絵巻」（現・五島美術館）をはじめとする名宝を数多く所有していました。



鈍翁 80歳、掃雲台にて。写真提供：鈍翁 in 西海子

◆本展に出品が決定した

《佐竹本三十六歌仙絵》

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 〈上巻〉 | 柿本人麻呂 | 凡河内躬恒 | 大伴家持 | 在原業平 |
| | 素性法師 | 猿丸大夫 | 藤原兼輔 | 藤原敦忠 |
| | 源公忠 | 斎宮女御 | 源宗子 | 藤原敏行 |
| | 藤原清正 | 藤原興風 | 坂上是則 | 小大君 |
| 大中臣頼基 | 平兼盛 | | | |
| 〈下巻〉 | | | | |
| | 住吉大明神 | 紀貫之 | 伊勢 | 山辺赤人 |
| | 僧正遍照 | 紀友則 | 小野小町 | 藤原朝忠 |
| | 藤原高光 | 壬生忠峯 | 大中臣能宣 | 源重之 |
| | 源信明 | 源順 | 清原元輔 | 藤原元真 |
| | 藤原仲文 | 壬生忠視 | 中務 | |

※赤字は本展に出品が確定した作品です（8月現在）。

子づくし

―千支を愛でる―

令和2年1月2日(木)～2月2日(日)

【平成知新館 1F-2】



趾袖俵に鼠置物
鴻池善右衛門氏寄贈・京都国立博物館

古代中国の天文学で、天球を十二分割し、それぞれに動物を示す漢字を当てたのが十二支の始まり。木星が十二年かけてその天球を渡るため、十二支で十二年を表すようになり、十二ヶ月や十二の日、十二の時や十二の方角もこのセットで示しました。その先頭が「子」。北方を表す「子の一番」です。そして「子」は鼠なので、子年には鼠をとりたてます。

鼠は、清少納言も「きたなげなる物」に数えるように、伝染病を運ぶ悪者です。穀物の蔵を荒し、強力な歯で衣類や調度も汚損する嫌われ者。それなのに、多くの美術品に愛らしく描かれるのは何故でしょう。

ひとつには、鼠に助けられて難題を解決した逸話を持つ日本の神様、大国主命おおくにぬしのみことが、インド出身の台所の神様、大黒天と、漢字の読み音を通じるために一体化し、その違いとしての鼠に富と豊穡の良いイメージが与えられたから、と考えられます。また、鼠は多産なために、子孫繁栄の願いも託されました。さらには、江戸時代の日本で、鼠がペットとして人気を博し、飼育法や珍種を得るための交配の手引き書などが刊行され、性質の優しい、人に懐く鼠がつくり出されて愛玩されたという歴史もあります。

日々の暮らしのなかにいた身近な小動物であり、神様の違いで子宝の象徴でもある鼠たち。子年の初めにどうぞ眺めにいらしてください。

(永島明子)



根付 蠟燭に鼠 京都国立博物館

京都御所障壁画

紫宸殿

令和2年1月2日(木)～2月2日(日)

【平成知新館 2F-4】

紫宸殿は、内裏(現在の京都御所)に建つ諸殿舎のなかでも最も格式が高く、その中心となる御殿です。古くは、節会(公事のある日に宮中で行われた宴会。天皇が出御し、群臣に酒饌を賜った)をはじめとする儀式や日常の政務が執り行われていましたが、治承元年(一一七七)に大極殿が焼失したのちは、即位や大嘗会などの重要な儀式も行われるようになりました。

その紫宸殿の母屋と北庇を仕切る九面の襖障子を、賢聖障子けんしょうざうしといいます。賢聖障子は高御座の後方に位置し、中央の一面には獅子狛犬と瑞獣である負文亀が、残る八面には中国唐代から唐代にいたる賢臣が各面四人、計三十二人描かれています。各人の上部には色紙形が貼られ、名前や功績などが記されるという形式がほぼ定まっており、平安時代にさかのぼる歴史があります。

内裏は、歴史上たび重なる火災に見舞われ、その都度再建されてきました。現在の京都御所は、幕末の嘉永七年(一八五四)に焼失したことを受け、翌年の安政二年(一八五五)に造営されたものです。そのため、内部を飾る障壁画はその多くがこの安政度の再建時に新調されています。ですが、賢聖障子は焼失を免れ、寛政二年(一七九〇)に幕府御用絵師住吉広行が描いたものが残っています。

現在、紫宸殿には模写が立てられ、原本は別に保管されているため、通常は目にする事ができません。今回の特集展示は、この賢聖障子が九面すべて公開されるたいへん貴重な機会です。

(福士雄也)



紫宸殿 賢聖障子のうち 宮内庁京都事務所

「ミュージアムパートナー」一覧

※2019年8月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

日本香堂 / 竹内美術店 / 土屋和之 / 聖護院ハツ橋総本店 / 株式会社SOLIMZホールディングス

株栄自動車株式会社 / 彌榮自動車株式会社 / 学校法人 二本松学院

【キャンペーンバナーズ一覧】

※2019年8月末現在
会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様は、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。詳細はウェブサイトをご確認ください。

学校法人 瓜生山学園

国立大学法人 大阪大学

大阪大谷大学 / 大谷大学

大手前大学 / 学校法人 関西大学

学校法人 関西学院 / 京都大学

京都外国語大学

国立大学法人 京都教育大学

京都工芸繊維大学

学校法人 京都産業大学

学校法人 京都女子学園

京都市立芸術大学 / 京都精華大学

京都橘大学 / 京都府立大学

近畿大学 / 嵯峨美術大学

四天王寺大学 / 就実大学

成安造形大学 / 帝塚山大学

学校法人 同志社 / 奈良大学

奈良女子大学

奈良先端科学技術大学院大学

学校法人 二本松学院 / 花園大学

佛教大学 / 学校法人 立命館

龍谷大学

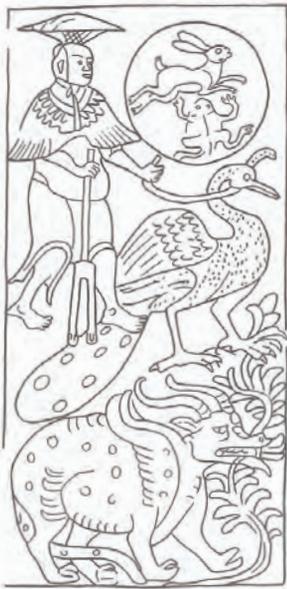
京都国立博物館 上席研究員

宮川 禎一

秋の夜長と言えば名月だ。子供の頃を思い出せば、満月を見ながら「月で兎が餅を搗いている」などとは思わず、アポロ十一号が着陸したのは「静かの海」などと思う科学の子だった。月に兎が居るなどというアジアの古いおとぎ話を掘り下げる意味が現在あるのか？という課題をふくみつつ「月と兎」について考えてみよう。

日本最古の月兎図は飛鳥時代の『天寿国繡帳』（中宮寺蔵）のそれであるが、もとをたどれば中国の古い伝説だ。月の兎は西王母の命令で「不老不死の仙薬」を臼と杵で搗いている（仙兎搗薬）。また月に蟾蜍（ヒキガエル）もいる。これは嫦娥（じやうが）という美女が、夫が西王母から貰い受けた仙薬を盗み飲んで月に昇り、蟾蜍の姿に変わったのだと。さらには何度伐つてもまた生える巨大な桂の木（月桂）もある。古く後漢代の墳墓の画像石には円面に兎と蟾蜍が刻まれる【図1】。ただし中国古代の図像史的には月の先住者はヒキガエルでありウサギは新参者のようだ。

【写真1】は仙兎搗薬図をもつ唐代の銅鏡の一部だ。円い月の中に葉を搗く兎、月桂、うずくまる蟾蜍（蛙）が表現されている。この銅鏡を見ながらこんな図像が日本にもあることに思い至る。それは京都の高山寺



【図1】林巳奈夫『漢代の神神』1989年。付図27。中国江蘇省銅山小李村苗山漢墓の画像石拓本を林巳奈夫がトレスしたものである。後漢時代、1～2世紀。画像石の高105cm。月のほかは神農・鳳凰・麒麟。



【写真1】月兎双鶴八花鏡（部分）京都国立博物館 唐時代後半8～9世紀。銅鏡の径21.6cm。この月の直径は5.0cm。

に伝わる国宝『鳥獣人物戯画』甲巻である。漫画の御先祖かとされる超有名な絵巻物だ。

この鳥獣戯画甲巻は「月の世界のお話」を描いたファンタジーではないかと思う。戯画というから分かり難いが、蛙と兎が相撲をとっている段階で月面の話なのだ。「中国の月の伝説の影響が認められる」のではなく、そもそも甲巻全体が月の風景を描いたものではないか。

現代人はアポロのせいで月が真空中で無生物なのを知っている。しかし天体望遠鏡もない平安時代、十二世紀の人ならば、月に兎と蛙が居るのだから、川もあるだろうし植物も生え、他の動物も居ると思うだろう。蛙と兎の弓矢競争の場面で狐が尻尾から狐火を出して照明しているのはここが夜の世界だからだ。大きなフクロウも夜の象徴だ。樹木は落葉後であり、全体にちりばめられた秋草は晩秋の風情だ。秋草と月はセツト関係にある。画面全体の寂寥感は薄暗さを感じさせる。

兎と蛙だけでなく、狐と猿も主役で描かれている理由は玄奘三蔵の『大唐西域記』巻七の「兎王本生譚」、すなわち兎が月に居る理由を示す印度の悲しい仏教説話にあるだろう。劫初（この世のはじめ頃）、狐・猿・兎は元々仲良しであり、林野で楽しく過ごしていた。『大唐西域記』の原文は「涉豊草、遊茂林、異類同飲、既安且楽」である。異類の動物たちが無邪気に遊ぶこの原始ユートピアの情景こそが絵巻のベースではないだろうか（平安時代末の不穏な世情の裏返し）。

中国と印度に伝わった二系統の「月兎の物語」を平安時代の日本で合体させたのが鳥獣戯画甲巻だ。作者（天才だ）は絵巻全体を月だと意識して描き、見せられた平安時代の人たちも「ああ、これは月の世界のお話ですな。月では皆仲良しでよろしいなあ」と言ったはずだ。

甲巻の正しい名称は『月世界絵巻』だ（あるいは『異類同飲絵巻』かも）。最古のSF漫画といたい。

講座・イベント

《特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」特別講演》

「巡る美 変わる美—流転する日本文化—」

講師：彬子女王殿下

日時：11月4日（月・休）14～15時

会場：平成知新館 講堂

※定員180名、聴講無料（ただし特別展の当日の観覧券が必要）。

※当日11時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

《特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」記念講演会》

10月13日（日）「冷泉家の歴史と文化—冷泉流歌道をめぐって—」

冷泉家時雨亭文庫理事長・京都美術工芸大学学長 冷泉 為人氏

10月19日（土）「歌仙絵の成立と展開—佐竹本への道のり—」

東京国立博物館主任研究員 土屋 貴裕氏

11月2日（土）「歌仙絵の最高峰—佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒—」

京都国立博物館研究員 井並林太郎

11月16日（土）「佐竹本三十六歌仙絵への想い」

京都国立博物館研究員 降矢哲男

※平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料（ただし当日の観覧券が必要）。

※当日11時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

《特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」 キャンパスメンバーズ向け講演会》

講師：井並林太郎（京都国立博物館研究員）

日時：11月1日（金）17～18時（16時30分開場）

会場：平成知新館 講堂

※参加方法：9月18日（水）～10月30日（水）の期間にウェブサイトよりお申し込みください。

https://www.kyohaku.go.jp/event/etc/20191101_campus-lec.html

※キャンパスメンバーズ（含教職員）のほか、本年は「留学の日」にあわせて留学生の方も申し込みいただけます。

《留学生の日》

日本文化への理解を深めていただくため、留学生の方々を対象に、開催中の特別展を団体料金（200円引）へ割引（キャンパスメンバーズは当日通常料金より500円引）するほか、先着200名に当館公式キャラクター・トラリんのグッズを進呈します。詳しくはウェブサイト（https://www.kyohaku.go.jp/jp/event/etc/20191101_foreign.html）をご覧ください。

日時：11月1日（金）9時30分～20時（入館は19時30分まで）

※入館の際に学生証をご提示ください。

《京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～ vol.54》

日時：11月15日（金）18時30分開演（18時開場）

会場：平成知新館 講堂

出演：桂二葉 桂歌之助 桂米左 <中入> 桂わかば 桂春若

入場料：3200円（キャンパスメンバーズは学生証提示により2600円）

※全席指定、特別展団体割引換券付

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。

お電話／博物館事業推進係 075-531-7504（月～金の10～12時・13～17時に受付 ※祝日は除く）

WEB／<https://www.kyohaku.go.jp/event/rak/index.html>

これからの展覧会

◆新春特集展示 子づくし—干支を愛でる—

2020年1月2日（木）～2月2日（日）

◆特集展示 京都御所障壁画 紫宸殿

2020年1月2日（木）～2月2日（日）

◆特集展示 神像と獅子・狛犬

2020年1月2日（木）～3月22日（日）

◆特集展示 雛まつりと人形

2020年2月15日（土）～3月22日（日）

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」

10月14日（月・祝）～11月24日（日）

【奈良国立博物館】

御即位記念特別展「第71回 正倉院展」

10月26日（土）～11月14日（木）

【九州国立博物館】

特別展「三国志」

10月1日（火）～2020年1月5日（日）

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【名品ギャラリー休止期間】

9月18日（水）～12月22日（日）

【庭園のみ開館期間】

9月18日（水）～10月10日（木）

11月26日（火）～12月22日（日）

ご利用案内

【開館時間】〈9月18日～10月10日〉9:30～17:00

〈10月12日～11月24日〉9:30～18:00

金・土曜日は20:00まで開館

〈11月26日～12月22日〉9:30～17:00

※入館は各開館の30分前まで

【観覧料】 【特別展】〈10月12日～11月24日〉

一般 1600円（1400円）

大学生 1200円（1000円）

高校生 700円（500円）

*（ ）内は団体20名以上。中学生以下、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

*大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。

*キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

*特別展期間中、名品ギャラリー（平常展示）は休止となります。

【庭園のみ開館期間】〈9月18日～10月10日、11月26日～12月22日〉

一般 260円（210円）（庭園ガイド冊子付き）

*（ ）内は団体20名以上。

*大学生以下、満70歳以上、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

【休館日】 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）

10月11日、12月24日～2020年1月1日（水・祝）

アクセス

JR＝京駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473（テレホンサービス）

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2019年10月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社
ライブアートブックス